

ITUAJより

お知らせ

1865年5月17日、ITUの基礎となった最初の万国電信条約が署名されました。その日を記念し、5月17日はITUで「世界情報社会・電気通信日」と定められており、当協会では毎年、「世界情報社会・電気通信日のつどい」を開催しています。今年も、日本ITU協会賞を受賞された皆様への贈呈式が行われ、また、記念講演では、東京大学特任准教授の松尾豊先生に、「人工知能は人間を超えるカーディナーニングの先にあるもの」というテーマでお話をいただきます。皆が抱いているこの質問にどうお答えいただけるのでしょうか。

つどいへご参加希望の方は、下記URLよりお申し込みください。

https://www.ituaj.jp/?page_id=12311

ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら https://www.ituaj.jp/?page_id=793

編集委員

委員長	亀山 渉	早稲田大学
委員	白江 久純	総務省 情報通信国際戦略局
〃	稲垣 裕介	総務省 情報通信国際戦略局
〃	財津 奈央	総務省 情報通信国際戦略局
〃	網野 尚子	総務省 総合通信基盤局
〃	岩田 秀行	日本電信電話株式会社
〃	中山 智美	KDDI株式会社
〃	福本 史郎	ソフトバンク株式会社
〃	津田 健吾	日本放送協会
〃	山口 淳郎	一般社団法人日本民間放送連盟
〃	吉田 弘行	通信電線線材協会
〃	中兼 晴香	パナソニック株式会社
〃	牧野 真也	三菱電機株式会社
〃	東 充宏	富士通株式会社
〃	飯村 優子	ソニー株式会社
〃	江川 尚志	日本電気株式会社
〃	岩崎 哲久	株式会社東芝
〃	田中 茂	沖電気工業株式会社
〃	三宅 滋	株式会社日立製作所
〃	斧原 晃一	一般社団法人情報通信技術委員会
〃	菅原 健	一般社団法人電波産業会
顧問	小菅 敏夫	電気通信大学
〃	齊藤 忠夫	一般社団法人ICT-ISAC
〃	橋本 明	株式会社NTTドコモ
〃	田中 良明	早稲田大学

編集委員より

Trust

日本電信電話株式会社

いわた ひでゆき
岩田 秀行



NTTに入社して、25年が経ちました。最初、東海村の茨城研究開発センタの線路部門に配属されました。入所当時はインターネットが普及し始めた頃で、その普及とともに光ファイバの家庭への普及が促進された時期です。小生の所属部署では、光ファイバケーブルの超高密度化を目指し、多くの光ファイバを実装した光ファイバケーブルの外径をできるだけ小さくすることを、国内外のベンダーさんと目指しました。その結果、1000心の光ファイバケーブルの外径を30mmにし、導入されました。その後、配線で用いる架空光ファイバケーブルの開発をする機会に恵まれました。1000心の光ファイバケーブルは主に地下の管路に用いられるため、目につくことはありませんが、架空の光ファイバケーブルは電柱に架設されているため、日本各地で見ることができます。入社当時の目標である“世の中に残る仕事がしたい”は入社約5年目で達成され、非常に幸運でした。

本題である“Trust”についてですが、光ファイバケーブルなどの所外設備は、屋外に設置されます。日本の場合、北海道から沖縄までの環境に設備がさらされることになります。そのため、長期信頼性の確保のため、NTTでは北海道や宮古島にばく露試験場を設け屋外設備の信頼性試験を行っています。屋内にある加速試験では得ることが難しい、塩害による腐食、強風による振動、温度変化による材料の伸縮などの影響を測定し、ケーブルの設計や架設方法に反映しています。日本のケーブルは、寒冷地や高温多湿地の環境に耐え得る信頼性を確保して、お客様への信頼性のあるサービスの提供を行っています。

最後に、標準化の場や分野の多様化、業界間の連携、技術進歩に対応した標準化の迅速化等の課題を、関連する標準化団体の変革も含め皆様に信頼を得ながら務めていきたいと思っております。

ITUジャーナル

Vol.47 No.4 平成29年4月1日発行／毎月1回1日発行

発行人 小笠原倫明

一般財団法人日本ITU協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11

BN御苑ビル5階

TEL.03-5357-7610(代) FAX.03-3356-8170

編集人 森 雄三、大野かおり、石田直子

編集協力 株式会社クリエイティブ・クルーズ

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会